令和４年度　調査研究報告書

「子どもたちの『夢と希望』『ふくい愛』を育む教育を推進するための校長の役割」

福　井　県　小　学　校　長　会

福井県小学校長会調査研究委員会

は　じ　め　に

福井県小学校長会長　北　和幸

令和４年度は、コロナウイルス感染症対策を行いながらも、極力通常の教育活動を行っていく形でスタートしました。感染症対策には気を配りながらも、校内に子どもたちの歌声が響いてきたり、３年ぶりにプール学習を行うことができたりと、コロナ前の学校生活に戻りつつあるという実感がありました。しかし、それもつかの間、７月に入り急激に感染者が増える中で県独自の特別警報が出される状況となり、現場は再び緊張を強いられる日々となりました。

夏休み以降も感染拡大が高止まりし、授業再開後の学校生活や授業にも様々な影響を与えるのではないかと危惧します。また、運動会など校外での活動が多くなる季節、熱中症への備えもまだまだ必要です。様々な制約の中でも、自由でのびのびした子どもたちの笑顔や、活気が溢れる学校となるよう知恵をしぼりながら乗り越えていきたいものです。

教員の働き方改革については、各学校とも業務推進期間を設けたり、教育課程の見直しを行ったり、行事の精選をしたりといろいろな工夫をされて、月あたりの超過勤務時間が８０時間を超えることはなくなってきました。しかし、持ち帰り業務の時間を含めると、４５時間以内の割合を増やすという県の目標は、まだまだ厳しいと言わざるを得ません。

教職員が自身の働き方を見直し、日々の生活の充実や心身の健康を維持することによって教職人生を豊かにし、笑顔で子どもたちの前に立ち続けることができるよう、今後も業務改善を進めていくことが必要になってきます。

さて、今年度も調査研究委員会のご尽力と会員のご協力により、調査研究報告書「子どもたちの「夢と希望」「ふくい愛」を育む教育を推進するための校長の役割」が作成されました。本報告書は、全連小と連携した調査項目に本県会員の要望に基づく独自の調査項目を加え、我々校長が何を優先し、どのように対応しようとしているのか、何を強く要望しているのかが明らかにされています。また、まとめられた調査報告書の内容は、前年度と比較調査を行い、併せて全国との比較も加えています。このことにより、学校経営上の今日的課題がより明確になっています。本報告書では、設問毎に調査結果を基に考察が加えられており、それらの考察はなるほどと思うものばかりで、日々の学校経営の方向性を示してくれるものとなっています。

私たち校長は、組織の総力を挙げて課題解決に努めるとともに、積極的に政策提言を進め、もって県民・国民の信頼に応える必要があります。本報告書の調査結果を踏まえ、校長として現状を深く認識し、教育改革の動向を的確に把握しながら、リーダーシップを発揮し、確かな計画と実行力をもって教育の成果をあげていかなければなりません。そのために、校長は自らの使命を自覚し、権限と責任の下に、未来社会に夢と希望を持ち、たくましく生きる児童の育成を志向して、活力ある学校づくりに努め、本県の教育がさらに充実したものとなるよう舵取りをしなければならないと考えています。

最後になりましたが、本調査研究報告書の発行にあたり、調査項目の設定、膨大な調査結果の集計、整理、分析、報告書の執筆に取り組んでいただいた調査研究委員各位、並びに調査にご協力いただきました県下各小学校長の皆様、関係各位に心よりお礼を申し上げます。